

**令和2年度
自己評価報告書**

令和3年3月31日

**学校法人 城西学園
城西放射線技術専門学校**

- ・学則第4条に基づき自らの運営状況について自己点検・評価を実施した。
本校の教育活動の状況を自ら点検・評価し改善点を今後の教育活動に活かすことを目的とし、毎年実施するものとする。
- ・評価の結果、改善を要する項目は学校長の改善指示のもと担当者は速やかに対応し、改善状況を学校長へ報告するものとする。
- ・評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に4段階評価（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

本校は現在地にて昭和 35 年 4 月 1 日付、城西レントゲン技術専門学校として発足

昭和 46 年 4 月 1 日付、城西放射線技術専門学校と名称変更

昭和 51 年 6 月 1 日付、私立専修学校として認可

診療放射線学科のみの夜間課程単科校であり、修業年限は 4 年である。診療放射線技師養成校として現代医療に求められる知識と技術の習得、信頼される人間性を養うということを教育の柱としている。

(1)城西学園校訓に「報恩感謝」を掲げており、恩や恵みに対して感謝の気持ちを持つことをいう。

これまでに受けた恩や恵みに感謝し病んだ人を思いやり医療人として恩に報いる、奉仕の精神を持つ医療人の育成教育を目標としている。

(2)本校の入学受入れ方針は以下の通りである。

- ・ 専門学校で学ぶことに対して確かな目的意識を持ち、学ぶ姿勢を大切にする方
- ・ 社会人としての自覚を持ち、職場や学校での言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている方
また、そのことについて学ぶ姿勢を持つ方
- ・ 心身ともに健康な方で、公私に関わらず、他者への思いやりを持っている方
- ・ 医療の現場はチーム医療が重要であり、コミュニケーション能力・連帯感を常に意識している方
- ・ 医療および医療技術に関心を持ち、適正があると考えている方

(3)職業教育を行う上では、病院等と連携した授業・実習が不可欠である。

学内における授業に加えて、学外での関連企業の工場見学、病院見学等を通じて専門性を養い、早い段階から医療現場における診療放射線技師の在り方を考える機会を与えている。

【課題・改善策】

- ・ 病院等で勤務している非常勤講師が多く、今必要とされている現場からの意見が聞ける。今後も現場と連携を取り必要とされる放射線技師の育成に努める。
- ・ 放射線技師の在り方を知る機会を設けるため、学外で放射線関連施設や病院見学などを行っていたが、コロナ禍で中止となった。次年度からは中止となった際の代替について検討する。
- ・ 事業計画は学科長が作成し、教職員へ周知させている。進捗状況を確認し、状況に応じて次年度に対応を繰り越すなどの優先順位をつけて実行する。

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められている	4
2	教育理念・教育目標・育成人材像は専門分野におけるニーズに伴っているか	3
3	理念達成に向けた教育活動を行っている	2
4	教育理念・教育目標が周知されている	3

基準2 学校運営

- (1)入学時から一貫して国家資格取得が教育目標。
- (2)原則、隔週実施される全員参加の職員会議では教職員が議題を発案・内容発表。会議後は議事録を作成し、次回会議の冒頭で前回の議事録の実施状況確認している。
- (3)城西学園理事会・評議委員会において本校は評議員・事務局として出席し、事業計画や運営方針などの決定事項を職員会議にて報告し、教職員全員へ周知徹底している。
- (4)期初に教務部、事務部の「業務分担表」を作成し、教務事務の担当および執行内容を具体的に示している。特に授業に関しては、カリキュラムに基づき「授業時間割表」を前期・後期作成し、教育活動への運営責任を明確にしている。
- (5)教職員の情報共有を目的とする共有フォルダーを導入。昨年度は容量を増やし、活用している。
- (6)ホームページ学内専用サイトおよび学生専用携帯サイトを利用して学生への緊急連絡（気象状況の影響やストなどによる臨時休校）授業時間変更・就職情報等を発信し、その他学生への連絡事項等を掲示している。
- (7)学校法人 城西学園（中学・高等学校、放射線技術専門学校）として教職員がクラウドシステム利用により情報の共有化を図っている。

【課題・改善策】

- ・改善策を講じる際に城西学園として対応が必要となるケースがあるため、綿密な連携を取って効率化を図る。
- ・国家試験合格という確固たる目標を持ち、理想とする学校運営を行う業務は過多になりつつある。担当者の負荷を減らすよう計画性を持って実行する。
- ・業務軽減のため、仕事の見直しやデジタル化など進められる分野の検討。また、コロナ禍で在宅勤務が推奨されているため、本校でも対応出来ないか検討する。

	評価項目	評価
1	目的に合った運営方針が策定されている	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されている	3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、有効に機能している	2
4	人事、給与に関する規定等は整備されている	3
5	組織整備など意思決定システムが整備されている	4
6	教育活動に関する情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている	3

基準3 教育活動

目標の設定

- (1)本校のカリキュラムは国家試験合格を柱としたものであり、目標達成に向け十分な内容で体系的に構成されている。各科目の教育目標はシラバスに明記し、授業初日にも学生へ改めて周知している。
- (2)学生より専任教員・非常勤講師の授業評価のアンケートを無記名で実施し、教育の質を高めている。その結果をフィードバックし各教員には授業の改善点等の提出を依頼。学生の意見を考慮した授業改善に活用している。
- (3)成績評価・単位認定の基準は「学生便覧」に記載しており、入学時のガイダンスにて周知している。また、進級判定・卒業判定は、教員全員が参加による進級判定会議・卒業判定会議にて規定に基づき行われている。
- (4)本校にて編集した実力・模擬・総合試験問題集を全教員、3・4年生に配布し、授業と自習に役立っている。
- (5)診療放射線学科のみの単科校である本校は、教員間で授業の流れや方法について日常的に話し合われており、職員も含めて改善についての意見交換をしている。

【課題・改善策】

- ・コロナウイルス感染対策の一環としてオンライン授業を行ったが、自主性の差が成績にも影響した。感染対策とオンライン授業を両立するべく新しい講義のあり方を模索する。
- ・授業評価結果が試験の難易度など、教育内容以外で評価していると思われるものも多い。評価集計にマークシートを使用しているが、自由に記入出来るスペースを増やして規定の項目以外の意見を徴収出来るように工夫する。

	評価項目	評価
1	理念・目的に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている	3
2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	2
3	授業評価の実施・評価体制は整っているか	4
4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確か	3
5	資格取得に関する指導体制は確立されているか	3
6	教員の資質、指導能力向上のための取り組みが行われているか	2

基準 4 学修成果

- (1) 昼間に病院等のアルバイトに従事している者も多く、病院実習の際には患者接遇や病院内での対応について評価されるケースも多い。
アルバイト先へ就職する者もいるため、勉強の妨げにならないことを前提に医療機関へのアルバイトを紹介している。
- (2) 入学者全員が国家試験に合格することが開校以来の目標。退学に繋がる理由は担任がヒヤリングし、解決に努めている。退学者の前兆として欠席が多く、担任からの連絡にも応じなくなる。無断欠席や欠席過多の者は担任が保護者と連携し、学習意欲と継続の意思確認を行っている。
- (3) 臨床実習施設へ訪問の際に情報交換を行っているほか、同窓会ネットワークを活用し、就職希望者には決定まで就職支援を行っている。また、卒業後に離職した卒業生に対しても同様の支援をしている。
- (4) コロナ禍で国家試験を控えた学生は来校を遠慮する傾向になるため、オンラインで個別面談を行い、国家試験や就職面接に対する取組みや現状での問題点などをヒヤリングし、改善出来るよう努めている。

【改善策】

- ・コロナウィルスの影響により、就職活動について動向が読めなかった。
学校へ入った情報を学生へいち早く届けられるような情報網を構築する必要がある。
- ・経済面で不安を抱えている学生に対しては高等教育の修学支援新制度の認定校となったことでサポートの範囲が広がったが、学校として独自の制度が出来ないか検討が必要。
- ・就職活動の大前提として、国家試験に受かる実力が認められなければならない。最終学年においては、勉強や個人の仕事に加えて、就職活動も始まることを早くから周知させる。

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られている	4
2	資格取得率の向上が図られている	3
3	退学率の軽減が図られている	2
4	卒業生・在校生の社会的な活動や評価を把握している	1

基準 5 学生支援

- (1) 就職等進路についても、国家資格の取得が大前提であり、取得しない場合は内定が取り消されるため、就職責任者だけでなく担当教員と連携し、成績と就職活動について個別指導をしている。
- (2) 退学者を増やさない対策として、担任が個人面談で現状の問題についてヒヤリングを行い、必要に応じて心理カウンセラーが精神面でのサポートにあたっている。担任教員と本人との面談以外にも状況により保護者・保証人へ連絡しているほか、職員会議において、学生の出席状況等を担任が報告し、職員を含めた全員で注意を払い学生の状況を共有している。
- (3) 現状の学力を把握してもらうため前・後期試験終了後、保証人宛に「定期試験成績表」（科目毎の点数と単位取得の可否）を送付し、学生サポートの協力を仰いでいる。
- (4) 授業が理解出来なかった学生は、担当教員へ個別に質問する他に、専用のメールアドレスへ質問が可能。また、4年時には授業前の講義を行い学生の学力向上に役立っている。

- (6)同窓会の活動として年1回の同窓会誌(年会費納付者)、適时会報の発行、年1回総会・学会を例年実施。在校生も参加し臨床現場の情報や学生時代の勉強法など情報交換・交流の場となっている。
- (7)本校入学生は現状社会人が50%強を占めており、勉強にブランクのある者も多い。事前学習の課題としてオンラインで行う自主学習 e-ラーニング(1年間利用可)を設け、学習計画表と共に事前学習・自己学習の場を提供している。

【課題・改善策】

- ・社会人を経て入学した学生は特に、保証人が形だけとなっているケースが見られる。その際は保証人と学生との間で連絡が密でないため、学生に対しての問題解決を連携することが難しい。
改善策として入学前の案内に学生生活をバックアップするために保証人へ連絡を取る旨を伝え、協力してもらえよう依頼している。
- ・学科が多数ある学校と同様のサポートを行うには限界があるため、学生が求めるニーズを把握し対応に当たる必要がある。
- ・入学時の学力に差が大きいため、事前課題である e-ラーニングを積極的に行うよう伝え、学習が足りない者には個別に連絡をして勉強するよう促す。

	評価項目	評価
1	進路指導に関する体制が整備されているか	4
2	学生生活に関して相談できる環境は整備されているか	3
3	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4	学生の経済的な支援体制はあるか	2
5	保護者と適切に連携しているか	2
6	卒業生への支援体制はあるか	1
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3

基準 6 教育環境

本校の施設・設備

- (1)設備や清掃等のメンテナンスを定期的実施。機器の管理補修も必要に応じて行われている。
- (2)病院実習は事前に受け入れ先とも十分な協議をし、適切に連携している。また、病院実習、学外実習中の事故等に備えての保険にも加入している。
- (3)「学校法人城西学園 消防計画」を作成し、消防設備等についても、法定点検を実施。学内に設置している自動販売機は緊急時飲料提供自動販売機であり、非常災害時に対応可能。事務職員が防火・防災管理者の資格を取得し、災害時の対応にあたる。
- (4)図書室にはインターネット閲覧可能なパソコンが6台備わっており、同様に午前10時から使用できる。書籍は定期的に見直され、教員がニーズに合わせて選定し購入している。

【課題・改善策】

- ・大雨、台風が警報された際の設備点検。特に地下は画像機器を設置しているため、清掃・点検には注意が必要。
経常的に建物の異常や対策には全員が注意し異変を感じたら、建物・設備担当者へ報告し対応する。

- ・機器備品の管理方法を写真とデータを一致させる管理システムの構築。
- ・臨床実習については実習前に目的と到達目標を周知させている。実習先との連携を密に行い、現場とニーズに応じている。

	評価項目	評価
1	施設・設備は教育上、十分に対応出来るよう整備されているか	3
2	学外の実習やインターンシップについて十分な教育体制が整備されているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	2

基準 7 学生の募集と受け入れ

- (1) 学校ホームページの充実、進学情報サイトの活用により、体験入学、学校説明会の案内を積極的に実施している。令和2年度はコロナ禍にも関わらず、学校説明会へ多くの方にご参加いただいた。説明会毎にレビューを行い、試行錯誤をしてきた結果が成果となった。今後も現状に満足せずに、改善を行っていく。
- (2) 既卒者は募集活動が難しい。医療機関で本校の卒業生と働いている人も多いため、在校生にとって知人に勧められる学校であり続ける教育をすることも必要とされる。

【課題・改善策】

- ・令和2年度より対面での説明会と並行してオンライン説明会を開催しているが、オンラインは予想せぬトラブルも多いため、同時に行う際には特に役割分担を明確にしてそれぞれが任務を遂行する必要がある。
- ・高校卒業からブランクのある受験生への広報活動方法。
- ・募集活動を行う際に希望者はホームページを必ず閲覧する。進学サイトは学校でかなりの範囲が修正できるが、ホームページは不可能。臨機応変な対応が出来る業者の選定。

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	教育成果の情報提供は正確に伝えられているか	3
3	入学選考は、構成かつ公平な基準により行われている	3
4	学納金は妥当なものとなっている	4

基準 8 財務

- 1)校舎設立時の借入金はあるが、財務基盤は安定している。
- 2)予算は計画に従って妥当に執行されている。年度予算編成にあたり、学納金収入等を見て中期計画を適宜見直して策定している。
- 3) 学校法人の会計処理を遵守して、監査法人による会計監査を実施し、監事の監査を受け理事会等に報告している。
- 4)財務情報はホームページで公開している。

【課題・改善策】

- ・今後必要となる設備や修繕費などを長期的に計画し、予算を確保する。
- ・学生数の安定化が収入の安定、予算作成にも影響してくる。学生が勉強に専念しやすい環境を作り国家試験合格者を一人でも多く輩出するため、学校が一丸となって取り組んでいく。

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

基準 9 法令等の遵守

- 1) 関係法令及び設置基準等を遵守し、関係省庁の指導のもとに適切に学校運営されており、関係省庁からの通知、通達等の内容を学内で共有し、報告等も適切に対応している。
- 2) 教職員、講師などすべての関係者が個人情報に関する諸規範の遵守を心掛けており、資料請求者、学校説明会・体験入学者等の個人情報は目的以外には一切使用していない。
- 3) 安全面では学内で使用するパソコンに対して情報流出保護システムを導入している。
- 4) 自己点検・自己評価は年に1度行われているほか、必要に応じて職員会議で問題提起をして対応している。
- 5) SNS 利用に際して責任が伴うことを入学時と実習前に再度指導している。

【課題・改善策】

- ・パワハラやセクハラなどのハラスメントに関して対応マニュアル作成を検討する。
- ・プライバシー保護や情報流出については今後より厳しくなると予想されるため、問題が起こる前の対策を検討する。

	評価項目	評価
1	法令、設置基準を遵守し、適正な運営がされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己点検・自己評価の実施と問題の改善に努めているか	2
4	自己点検・自己評価の結果を公開しているか	4

基準 10 社会貢献・地域貢献

- 1) 城西中学・高等学校の文化祭（しいの木祭）実施時、本校も医療関連の公開講座および種々の医療機器の見学・体験実施を通じて地域住民と交流を図っているが、令和2年度は実施できなかった。
- 2) 本校に届くボランティア募集の案内は掲示しているが、夜間校である本校は昼間に働いている学生が多く、社員としてフルタイムで働く学生もいるため、1週間のスケジュールを見ても活動にあてられる時間自体が取れないのが現状。

今後は城西学園として地域のニーズに応えられるボランティア活動には積極的に参加を検討する。

【課題・改善策】

学校としてボランティアを強制することはできないため、有志で参加出来るものはないか検討する。

	評価項目	評価
1	学生の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
3	地域活動に積極的な参加をしているか	1